



橋本博明 Hiroaki Hashimoto

衆議院議員(民主党 環境委員会理事・内閣委員会)
(1995年3月 理学研究科博士課程前期修了)
支えあいの社会を築きたい

—政治家を志したきっかけは？

科学技術庁で働いていたとき、いろいろな役所の代表者が集まって特殊法人改革について検討するチームへ、科学技術庁代表として参加したことがありました。でも実際には、役所同士や族議員による足の引っ張り合いがあり、



今の政治が行っている改革は名ばかりのもので、本当の改革とは程遠いものだと感じました。だったら自分自身が政治家になって、この現状を変えるしかない!と思い立ったのがきっかけです。

今は、ようやくスタートラインに立てたという思いです。政権に対するさまざまな批判もありますが、とにかく一喜一憂せずに、やらなくちゃいけないことを着実にやっつけていこうと思っています。

—学生時代に抱いていた政治家へのイメージと

今のギャップは？

政治家というと、やはり政策を考えることがメインだと思う

ていました。法律を立案したり、予算案を作ったり……。それももちろん大切なことですが、それ以上に、地元に戻って生の声を聞く機会が多いですね。地元の方に、実際に困っていることを聞いて、それを国政に持ち帰ることが仕事です。政治家は、訴えたり説得したりする「言う」スキルが高くなければならないと、一見思われがちですが、「聞く」スキルの方が「言う」こと以上に要求されていると感じています。政治家になって初めて分かったことは、いろいろな人の応援がないとできない仕事だということ。皆さんの力を借りてチャンスを得たので、仕事で恩返しをしたいと、強く思っています。



—学生時代の思い出は？

お祭り好きなので、大学祭実行委員会の委員長をしていました。自分たちは裏方の仕事なんだけど、皆さんが楽しんでいるのを見て満足感に浸る。そのときの気持ちが今の活動の原点になっているのかもしれない。そういう意味では、国会議員も裏方ですよ。国民の皆さんが実現したいことや夢の達成を応援させていただくというスタンスです。

学生時代は、自由に時間を使える、数少ない期間です。その時間をなんとなくではなく、能動的かつ主体的に使うということを意識してほしいですね。

—今後の目標は？

いつか「自分が楽しければ幸せ」という価値観から脱却して、「ほかの人の幸せは自分の幸せ」と思えるような支えあいの社会を築きたいと思っています。そのためには、人の生き方や価値観を変えなければならぬので、おこがましい夢だと思し、時間もかかるでしょう。5年後、10年後も、一議員として引き続き活動していきたいと思っていますが、目標に到達するための手段として総理大臣になる必要があれば、目指していきたいですね。



社会の第1線で活躍している先輩たちの職場を訪ねて、突撃インタビュー。仕事のことから学生時代に身につけておくべきことは、はたまたメンターズOB&OGの紹介。私たち学生の素朴な疑問・質問にお答えいただきました。

羅針盤 compass OB&OG 紹介



—この仕事を選んだきっかけは？

就職活動をしていた大学3年のころ、誰かの役に立ちたい、必要とされたい、喜んでもらいたいという思いが、いつも念頭にありました。

そんな時にふと考えたのが、毎日の通学に利用していたJRのことです。駅や車内には、老若男女を問わず、さまざまなお客さまがいて、駅員さんは日々の業務の中でさまざまな方と触れ合い、たくさんの笑顔に出会えると思いました。誰かの役に立てるという点で、これ以上の職業はないと思い、興味を持っている調べ始めたのがきっかけです。

—どんな仕事ですか？

入社3年目の今は、総務課でCS(顧客満足)を担当しています。CSとは、JRを利用されるお客さまに心から満足



していただくには、どういったサービスが必要なのかを考えて提供していく仕事です。「キク象ボックス」やお客さまアンケートなどで頂いた、お客さまの声をもとに、いろいろなサービスを考えていきます。

私たちが今までに実現したサービスには、「エクスプレス予約・5489サービス」「さわやかマナーキャンペーン」「女性専用車の設置」などがあります。お客さまから、お礼の手紙や電話を頂いた時はやはりうれしいですし、やりがいも感じますね。

—今後の目標は？

さまざまな人とかかわれる総務課で、引き続き仕事をしていきたいです。当社にはさまざまな専門部署がありますが、私自身、思い込んだら真っすぐ進みがちな性格なので、専



門的な仕事よりも、全体が見通せる総務課が向いていると思います。

今後はCS担当として働きながら、ES(社員満足)にも力を入れていきたいと思っています。私はCSとESは車の両輪だと考えています。お客さまの満足度を高めることは社員の満足度を高めることにもつながり、その逆もまたしかりということ社員に伝えていきたいです。双方に喜んでもらえるような環境づくりを目指してがんばります。

—後輩へのメッセージ!

人との出会い・つながりはとても大切だと、つくづく感じています。友達を大切に、新しい交友関係を積極的につくっていきましょう。困ったときに助けてくれる友達、心が休まる人間関係を今うちに築いてほしいですね。

それから、自分の思いを他人に伝えて、形にしていくことに挑戦してください。自分のやりたいことをきちんと言葉に出して、さらに相手に理解してもらう



ことは簡単ではありませんが、仕事をする上で非常に大切です。今のうちから練習しておけば、社会人になって、その経験がきっと生きてくると思いますよ。



渡壁なぎさ Nagisa Watakabe

西日本旅客鉄道株式会社 広島支社総務課 CS担当
(2007年3月 経済学部卒業)

お客さまの満足は社員の満足。その逆もしかり。

取材を終えて



クラシカルで立派な議員会館、通路がフカフカなじゅうたんの国会議事堂、右も左も警備員が仁王立ち……。非日常的な光景の連続に「なんだかエライところに来てしまった!!」と思い、地に足が着いていない状態でした。そんな緊張している私の取材にも、本当に謙虚な姿勢で応じていただき、橋本議員の優しさや「聞く」スキルの高さを感じました。「コミュニケーションはまずはしっかり相手の意見や声を「聞く」こと」をまさに体現されていると思いました。

取材・記事/教育学部4年 今津 大紀



常に笑顔を絶やさずに対応してくださった渡壁さん。スーツもばっちり決めていました。この春から社会に出る私自身にとって、今回のインタビューは非常に有益なものとなりました。私も、渡壁さんのように自分の仕事に誇りを持ち、生き生きと働くことができる社会人を目指します。

取材・記事/法学部卒業 白木 知裕